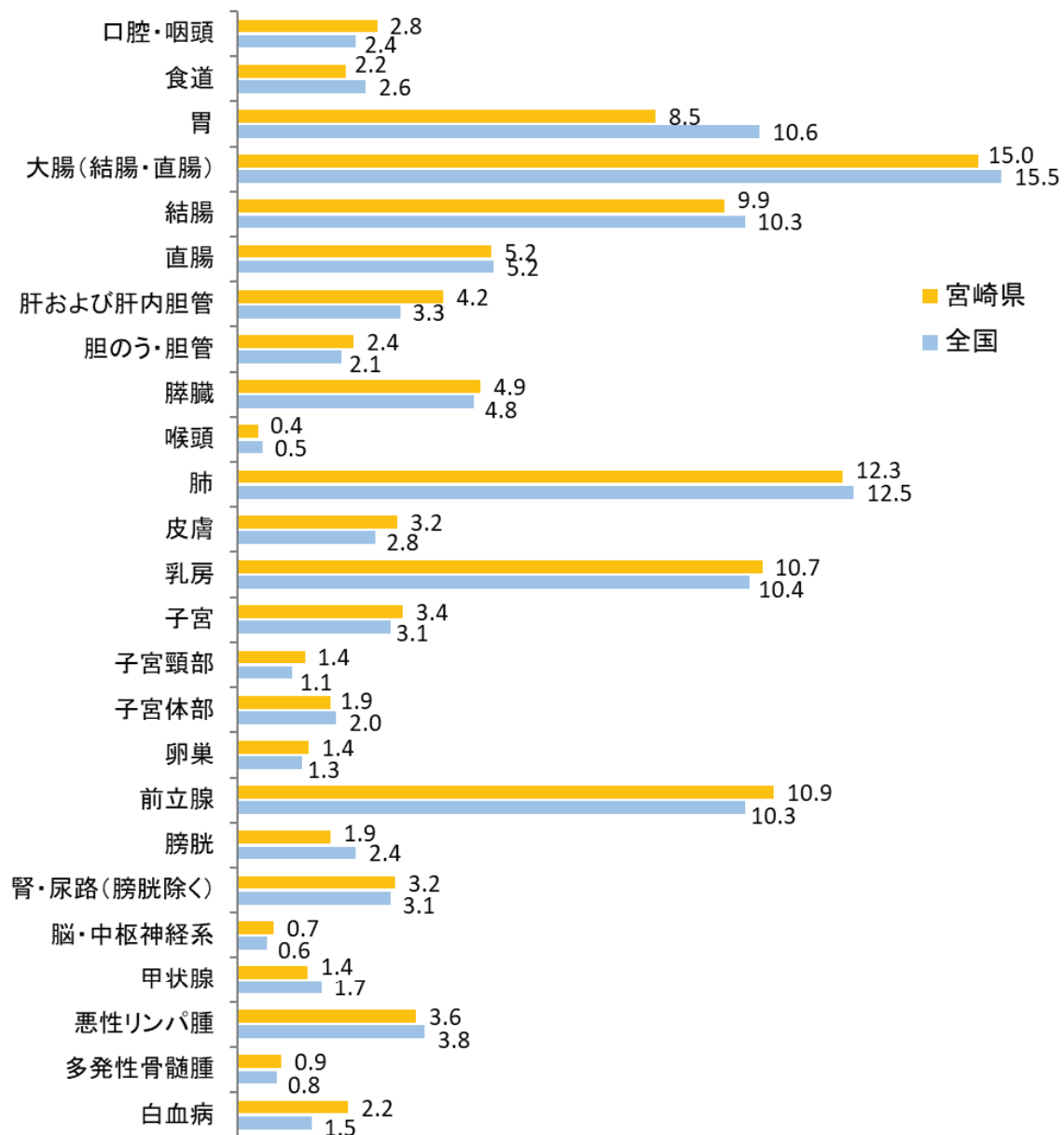


4 2023 年がん罹患の概要

(1) 全体の概要 : 表 1-A (上皮内がんを除く) から作成

2023 年宮崎県の罹患数は、男性 4,602 件、女性 3,660 件の、合計 8,262 件であった。
 総計より、最も多いがんの部位割合は大腸 (結腸・直腸) であり 15.0%、肺 12.3%、前立腺 10.9%、乳房 10.7%、胃 8.5%と続く。男性では、前立腺 19.5%、大腸 (結腸・直腸) 14.9%、肺 14.1%、胃 10.5%、肝および肝内胆管 4.8%であり、女性では、乳房 23.8%、大腸 (結腸・直腸) 15.2%、肺 10.0%、子宮 (子宮頸部・子宮体部・子宮その他) 7.6%であった。

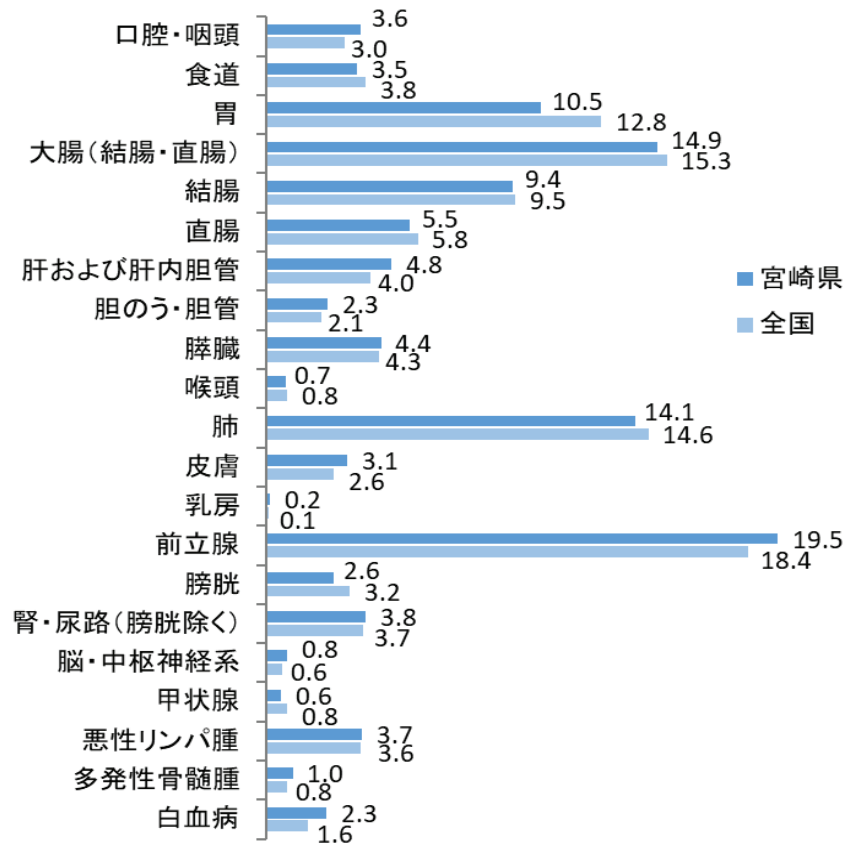
2023年罹患部位別割合(%) (全国比較)



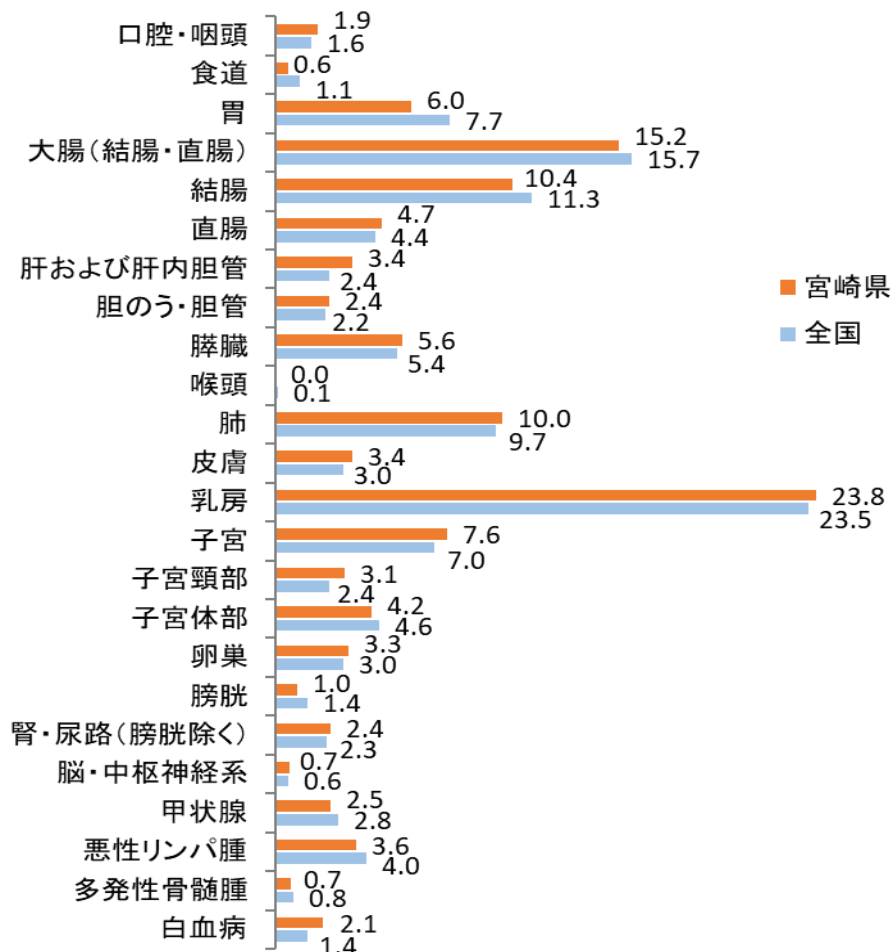
出典：全国値は、

厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課「全国がん登録 罹患数・率報告 2023 年」から抜粋

男性 罹患部位別割合(%) (全国比較)



女性 罹患部位別割合(%) (全国比較)



(2) 年齢階級別に見たがんの罹患 : 表 2-A (上皮内がんを除く) から作成

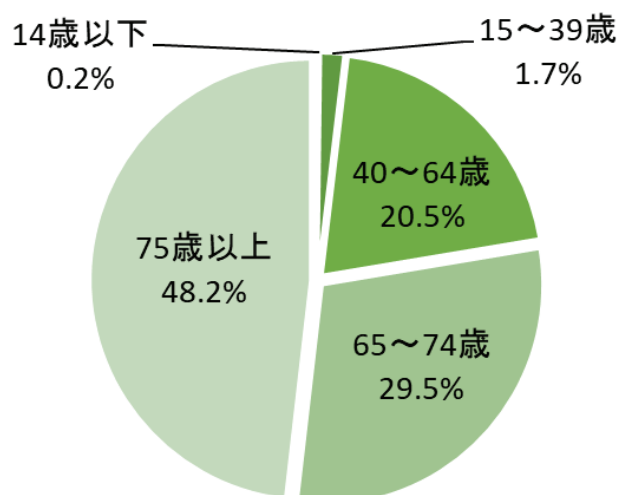
年齢階級別にみると、75 歳以上の割合は全体では 48.2%、男性 49.7%、女性 46.3%であった。40～64 歳では、男性 15.8%、女性 26.4%を占めている。

男性の 45 歳から大腸 (結腸・直腸)、45 歳から胃、55 歳から肝及び肝内胆管、前立腺が増加している。

女性では 35 歳から乳房、子宮 (子宮頸部・子宮体部・子宮その他)、40 歳から大腸 (結腸・直腸)、50 歳から肺が増加している。

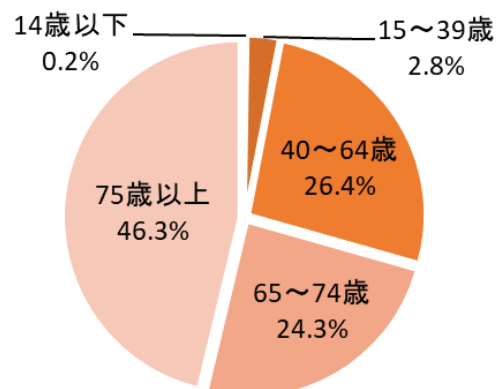
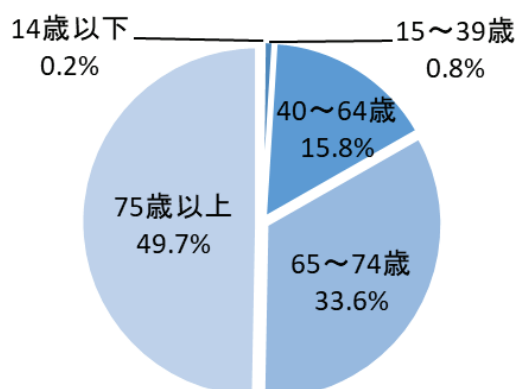
全体で見ると、40 歳から大腸 (結腸・直腸) が徐々に多くなっている。

全体(件)	
14歳以下	16
15～39歳	141
40～64歳	1,690
65～74歳	2,435
75歳以上	3,980
合計	8,262



男性(件)	
14歳以下	7
15～39歳	39
40～64歳	725
65～74歳	1,544
75歳以上	2,287
合計	4,602

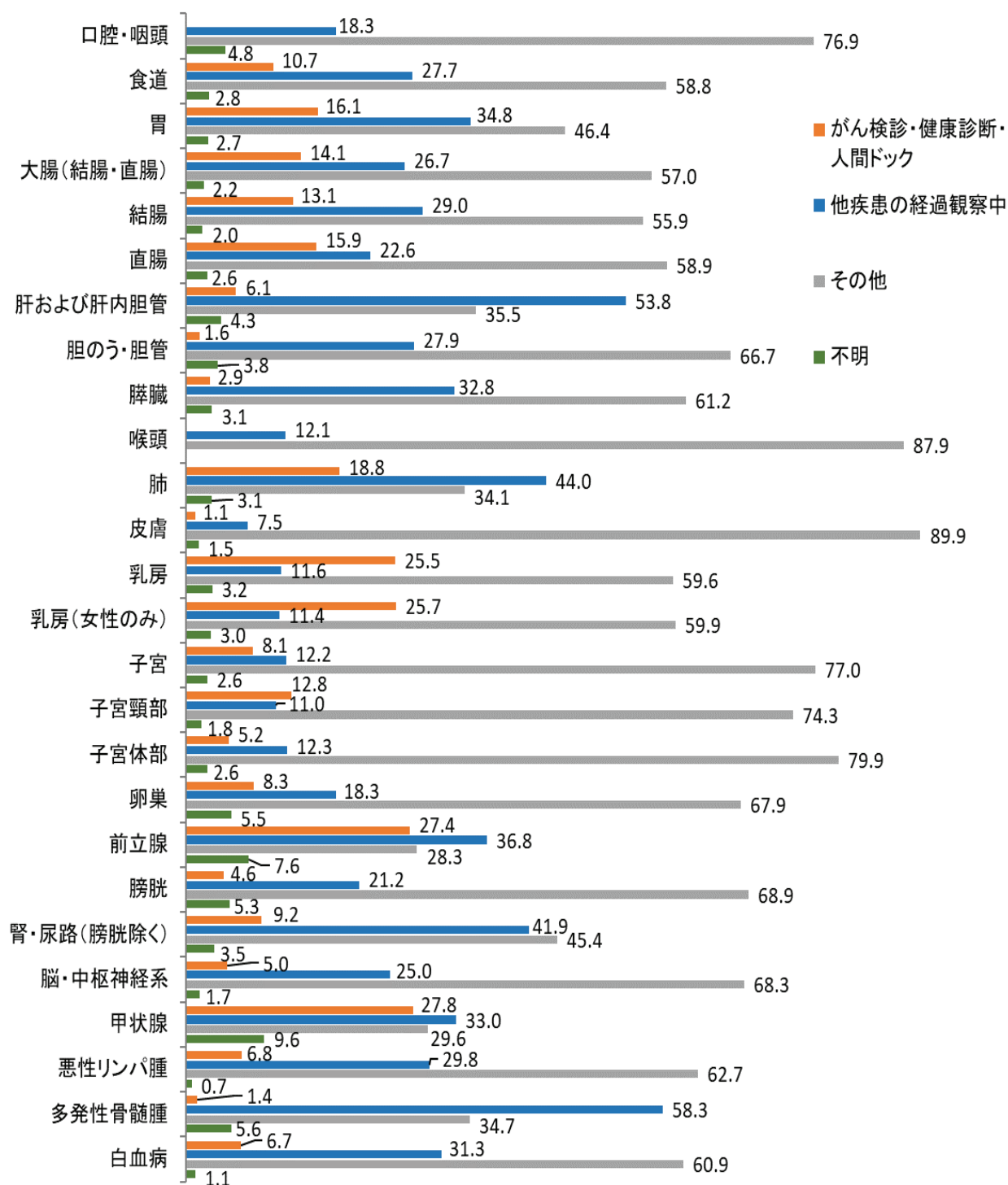
女性(件)	
14歳以下	9
15～39歳	102
40～64歳	965
65～74歳	891
75歳以上	1,693
合計	3,660



(3) 発見経緯から見たがんの罹患 : 表 4-A (上皮内がんを除く) から作成

部位別に見ると、「がん検診・健康診断・人間ドック」で発見された割合が高いのは、甲状腺、前立腺、乳房であった。また、「他疾患の経過観察中」で発見された割合が高いのは、多発性骨髄腫、肝および肝内胆管、肺、腎・尿路（膀胱を除く）であり、「その他（自覚症状による受診を含む）」で発見された割合が高いのは、皮膚、喉頭、子宮（子宮頸部・子宮体部・子宮その他）および口腔・咽頭であった。

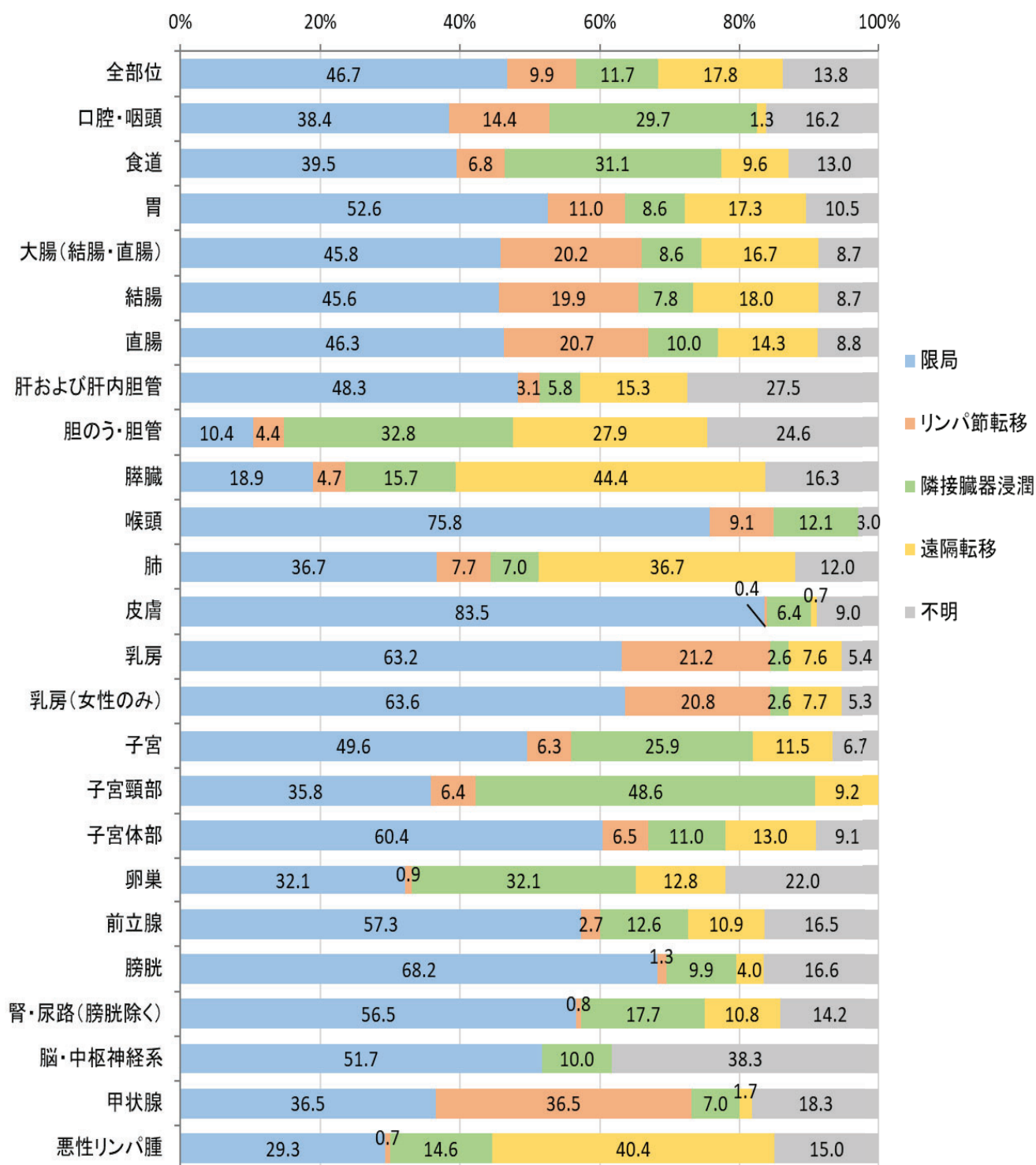
2023年発見経緯から見た部位別罹患状況(%) (上皮内がんを除く)



(4) 進展度分布から見たがんの罹患 : 表 5-1-A (上皮内がんを除く) から作成

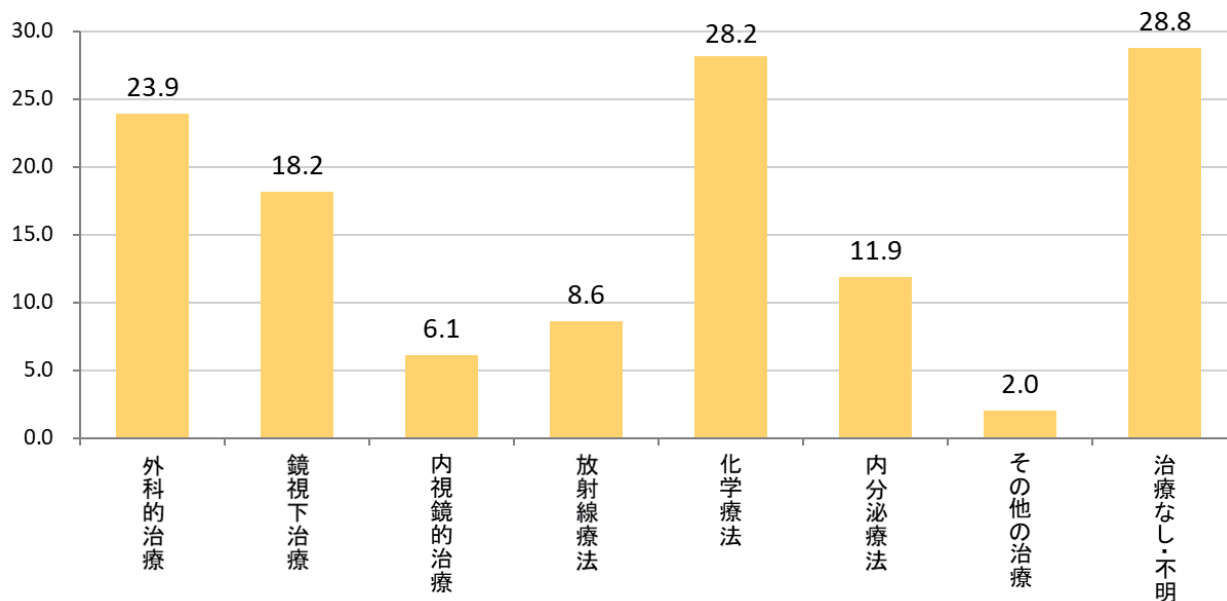
全部位の進展度を見ると、限局 46.7%、リンパ節転移 9.9%、隣接臓器浸潤 11.7%、遠隔転移 17.8%、不明 13.8%であった。限局の割合が 50.0%以上の部位は、胃、喉頭、皮膚、乳房、子宮体部、前立腺、膀胱、腎・尿路(膀胱を除く) および脳・中枢神経系であった。

2023年進展度分布から見た部位別罹患状況(%) (上皮内がんを除く)



(5) 初回治療内容から見たがんの罹患：表 6-A（上皮内がんを除く）表 6-B（含む）から作成
 上皮内がんを除く全部位の初回治療内容を見ると、外科的 23.9%、鏡視下 18.2%、内視鏡的 6.1%であった。また、放射線療法 8.6%、化学療法 28.2%、内分泌療法 11.9%であった。
 なお、上皮内がんを除く、含むともにそれぞれ重複を含むため合計は 100%にはならない。

2023年初回治療内容 全部位8001件の割合(%) (上皮内がんを除く)



2023年初回治療内容 全部位8741件の割合(%) (上皮内がんを含む)

